

**「アフリカ稲作振興のための共同体」**  
(“Coalition for African Rice Development : CARD”) について

**1. CARD 設立の背景・必要性**

1990年代後半以降、アフリカではコメ需要が急激に増大し、輸入が増加し続けている。さらに、昨今の世界的な穀物価格の上昇は、貧困層を中心に食糧不安を引き起こしており、緊急的な対策とともに中長期的な生産拡大の必要性が再確認されている。コメは、アフリカにおける主要消費穀物のうち唯一域内生産拡大のポテンシャルが高いものであるため、これに焦点を当てて国際的な支援を結集させることは極めて効果的であり、中長期的な食糧問題の改善とともに、農村地域の振興と貧困削減にも資するものである。

このような状況を踏まえ、JICAは「アフリカ緑の革命のための同盟(AGRA)」と共同で、2008年5月、TICADIVの場において「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」を発表した。CARDは、アフリカにおけるコメ生産拡大に向けた自助努力を支援するための戦略(イニシアティブ)であると同時に、関心あるコメ生産国と連携して活動することを目的としたドナーによる協議グループである。

**2. CARD の目標**

CARDは、サブサハラ・アフリカのコメ生産を向こう10年間で倍増(1400万トンから2800万トン)することを目標とする。

**3. コメ生産拡大の可能性とアプローチ**

これまでのサブサハラ・アフリカにおけるコメの生産増は、主として生産面積の拡大によるものであった。1960年代以降のアジアの「緑の革命」で起きたような単位面積あたり収量の大幅な増大は未だ実現しておらず、今後、サブサハラ・アフリカにおいても収量の増加を図っていくことが求められている。また、サブサハラ・アフリカには水田に適した未利用の低湿地が2000万ha存在するといわれており、これを適切に開発することで、持続的な形で生産増を図ることが期待できる。

**(栽培環境別アプローチ)**

CARDでは、「灌漑水田」、「天水低湿地」、「天水畑地」の3つの栽培環境に応じた適正品種の選定、栽培技術の改善及び必要な投入(水、肥料等)の促進等

を行う。灌漑水田については既存の灌漑施設のリハビリと水利組合の強化、天水低湿地については稲作開発モデルの確立とその普及、天水畑地についてはネリカの普及等を重点的に進めていく。

#### (バリューチェーンアプローチ)

コメの生産面に加え、ポストハーベスト、販売・流通にいたる各段階において価値を高めること(バリューチェーン開発)を目指す。

#### (人材育成アプローチ)

アフリカの稲作振興を図る上で人材育成は最も重要な課題であり、CARD では稲作振興に携わる研究者、普及員、中核農家等の能力強化を図る。

#### (南南協力アプローチ)

アジアは稲作に関する長い歴史と経験を有しているところ、南南協力により、その知見の活用を促進する。

## 4. CARD の枠組み

### (1) CARD の特徴

CARD は二国間ドナー、多国間ドナー、アフリカ地域機関及び国際機関により構成される協議グループであり、アフリカにおける稲作振興を目的とした、情報の共有、既存のイニシアティブ・プロジェクト活動の調整と調和、追加的投資への呼びかけを行なう。

### (2) 実施枠組み

#### ● 本会合

CARD における最高意思決定機関であり、CARD 参加機関の代表者が出席。原則2年に1回開催される。

#### ● 運営委員会

CARD の運営について検討を行う機関であり、CARD 参加機関の実務レベルの担当者が出席。原則1年に1回開催される。

#### ● 事務局

CARD に関する諸活動が適切に実施されるべく、必要な支援を行なう。ケニア・ナイロビの AGRA オフィス内に設置され、AGRA、FARA、JICA から派遣されたスタッフが業務を行なっている。

### (3) CARD 参加機関

現在、CARD への参加を正式に表明し、運営委員会メンバーとなっているのは JICA、JIRCAS、AGRA、FARA、IRRI、WARDA、NEPAD、FAO の 8 機関である。

また、WB、AfDB、IFAD、WFP、USAID、AFD 等が CARD に対し関心を示している。

#### (4) CARD 支援対象候補国

2008 年 10 月に実施された第 1 回 CARD 本会合において、以下の国が CARD 支援対象候補国第 1 グループ、第 2 グループに選出された。

##### 第 1 グループ

カメルーン、ガーナ、ギニア、ケニア、マダガスカル、マリ、モザンビーク、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ

##### 第 2 グループ

ベナン、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国、コートジボワール、コンゴ民主共和国、リベリア、ルワンダ、ガンビア、トーゴ

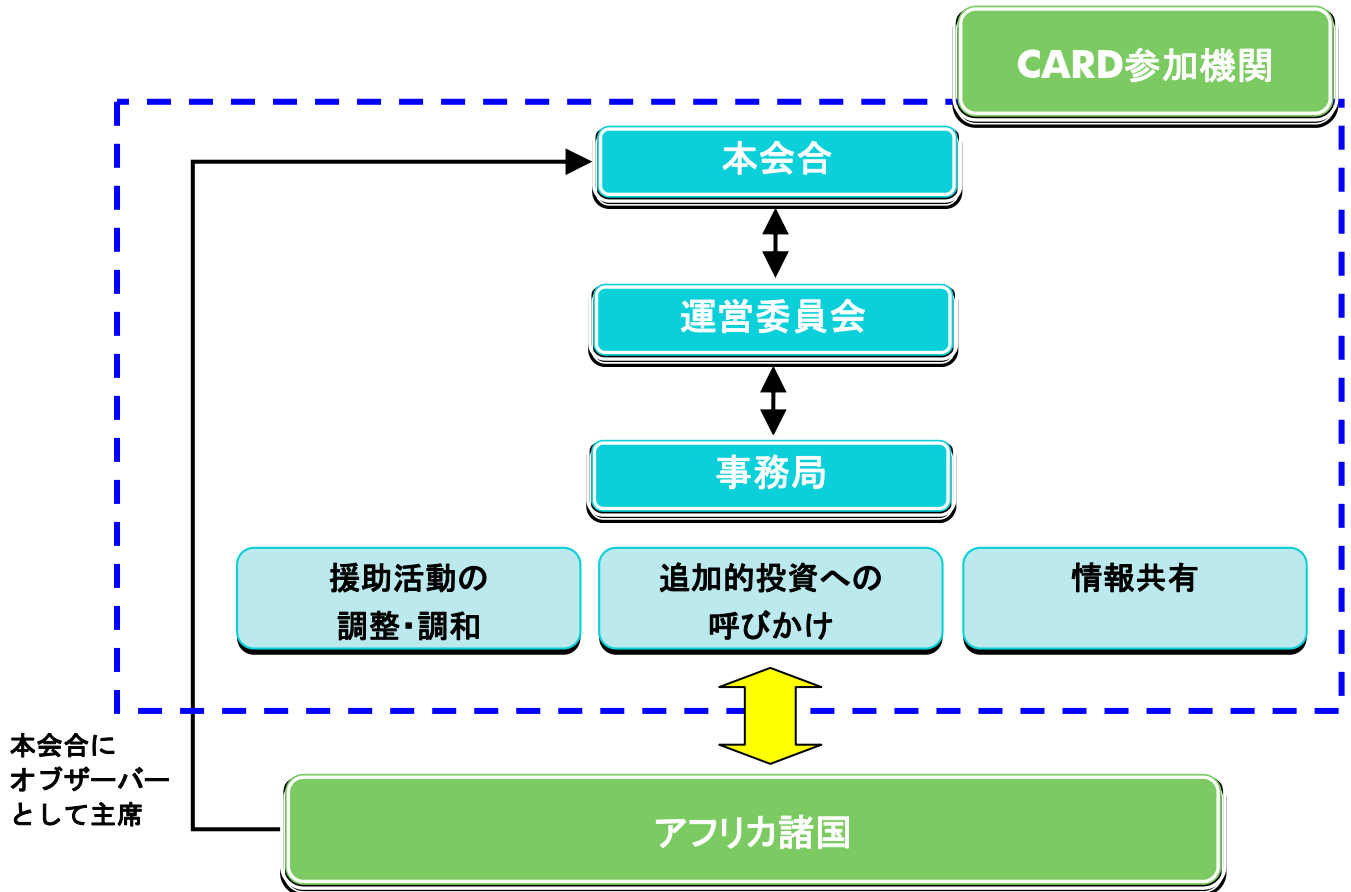
#### (5) 国別稲作振興戦略文書 (NRDS)

CARD 支援対象候補国は、政府のオーナーシップの下、NRDS を作成することが求められる。なお、必要に応じ、CARD 事務局が NRDS 作成プロセスを支援する。CARD 参加機関は作成された NRDS に基づき協力の可能性を検討する。

### 5. これまでの経緯及び今後の予定

2008 年 3 月	「TICADIV に向けた農業分野専門家会合」(東京、外務省主催)におけるイニシアティブ案の検討
2008 年 5 月	TICADIV サイドイベントにおける CARD の表明
2008 年 9 月	CARD 技術会合の開催 (ベナン・WARDA)
2008 年 10 月	第 1 回 CARD 本会合開催(ナイロビ)、支援対象候補国の決定、CARD 管理運営規則の承認等
2008 年 11 月	支援対象候補国第 1 グループへの NRDS 作成依頼
2009 年 2 月	NRDS 作成に関するワークショップの開催(ベナン・WARDA)
2009 年 3 月	NRDS 第 1 ドラフトの提出、CARD 参加機関による協力可能性の検討
2009 年 5 月	第 2 回 CARD 本会合の開催、各国による NRDS の発表と参加機関による支援方針の表明
2009 年 6 月以降	第 1 グループに対する活動のモニタリング 第 2 グループに対する活動の開始(2009 年末を目処に NRDS プロセスを開始)

## CARD の実施枠組み



## CARD の目標達成のためのアプローチ

